

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035A	卒業研究(生川卓弘) Graduation research	生川卓弘			4	必修	4通期

**科目の概要**

ライフスタイル学科の授業内容で学んだ知識を最大限に生かし、社会へ出る前の集大成としての研究をおこなう。家政学の立場から衣・食・住といった生活全般に関わる知識を基盤として、一般社会において人々へ啓発活動ができる人材となることを目的とする。そのため、研究方法としてはより深く真実を追求し、既存概念を打ち破り、新たな領域における知識を得るべく研究を行う。また、自分の研究結果から得られた新事実を分かりやすく伝えられるように発表をおこない、論理的な文章として卒業論文にまとめる力を身につける。更に、研究から得られた知識を社会に発信し、社会全体がより豊かな生活を送る事が出来るように役立てる。家政学という学問領域の全ての知識と技術を十分に活かし、今後の生活を豊かにする専門的な知識の獲得となる科目である。

また、ディプロマポリシーとして以下の点についても学ぶ

①建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる。  
 ②ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付け、地域再生に貢献することができる。  
 ③自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。

学修内容	到達目標
① 生活の中から現状の問題点に気づく。 ② 先行研究について調査する。 ③ 研究目的を設定する。 ④ 研究方法や計画を構築する。 ⑤ 結果及び考察を発表する。	① 生活の中から現状の問題点に気づく事ができる。 ② 先行研究を比較するなどの調査ができる。 ③ 自分の研究目的を設定する事ができる。 ④ 年間の研究方法・計画を構築することができる。 ⑤ 結果及び考察を他の人に発信し、実生活の中で活用する事ができる

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	指示されずに自ら進んで研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	学内のみでなく、学外にも進んで調査に出かけることができる。
	実行力	研究の進み具合を確認しながら、実験／調査を進めることができる。
考え抜く力	課題発見力	研究を行う中で新規課題を見つけたら、さらに追求する事ができる。
	計画力	必要な調査／研究方法を前もって調べてから研究を遂行することができる。
	創造力	研究の途中でも新たな研究方法や質問紙を作成することができる。
チームで働く力	発信力	研究で協力者が必要な際は協力者を呼びかけることができる。
	傾聴力	先行研究者や協力者の意見を聞く事ができる。
	柔軟性	固定観念に捕われず、多角的・多方面から考える事ができる。
	状況把握力	研究の進行具合から内容を深くあるいは短縮することができる。
	規律性	約束の時間を厳守し、限られた時間で研究がきちんとできる。
	ストレスコントロール力	研究が思うように進行しなくてもきちんと進めることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキスト：使用しない。  
 参考文献：各自の研究内容に応じて参考・引用文献をICTを使用し紹介する。

**他科目との関連、資格との関連**

主に栄養学や食品学、調理学といった科目を中心に家政学で開講される科目全般の知識と技術を生かすことのできる内容である。

学修上の助言	受講生とのルール
前期は予備調査／実験を行う準備期間とし、夏休みから本格的な研究になります。しっかりと先行研究を調べて新たな発見となる研究を行って行きます。	教員との約束の時間に遅れないこと。また、研究の内容は常に記録して、発表会・論文に備える事。要旨など期日が有るものは計画立てて作成し、早めに提出し、何度もチェックを受けて完成する事。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
平常評価	レポート	0	①					
			②					
			③					
			④					
			⑤					
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			① 中間発表の要旨では研究の背景や方法がしっかり書けているか。 ② 中間発表会で研究の目的や方法を的確に発表し、質疑に答えられるか。 ③ 卒研発表要旨には結果や考察がきちんと書けているか。 ④ 卒研発表会で結果と考察を論理的に発表でき、質疑にも的確に答えられるか。 ⑤ 論文は緒言から考察まで論文としての文章でまとめて書けているか。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			(主体性)自ら進んで研究を進めていくことが出来る。 (実行力)研究の進行に応じて、実験／調査を進めることが出来る。 (状況把握力)研究の進行状況に応じて、改善案を考えられる。 (創造力)研究の中で自ら質問紙を作成する、文章を書く事が出来る。 (発信力)協力者や調査対象者に正しく内容を伝えることが出来る。 (傾聴力)教員の指示に対してきちんと従う事が出来る。 (規律性)遅刻・欠席をせず、報告、要旨や論文を期日までに、記入もれがなく提出することが出来る	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>研究を率先して行う事に加えて、研究を進めて行く上で不具合が生じた際には的確に対応できること。論文をこれまでの結果を踏まえて考察がしっかり書けており、発表も研究内容がきちんと把握されており、まとめていればA、さらにその内容が参考文献や引用文献が元になっていて適切な内容であり、さらに発表の際にも参考文献を用いた内容である場合はSとする。</p>	<p>研究成果をまとめた論文を決められた期限までに提出する事が出来、発表も適切にできていればBとする。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	研究テーマを確立するための先行研究の調査	ICT活用した演習、実験・実習	研究テーマに関する資料を収集することができる。	(予習) 図書館あるいはインターネットによる論文検索をする (復習) ノートに調べたことをまとめる	180	主体性 実行力 計画力 発信力 規律性
6-10	先行研究から得られた知識を元に自分の研究方法を見いだす	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	先行研究から自分の研究を行う手法を見いだし予備実験／調査を行う。	(予習) 目的に応じて調査する。 (復習) 実験実習を行い、その結果を見やすくまとめる	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 規律性
11-13	先行研究の方法に応じた予備調査／実験から今後の方向性を計画する	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	先行研究の手法に応じた予備調査／実験・実習の結果から自らの方法を決定することができる。	(予習) 調査した内容を自分の言葉にして必要な箇所をチェックする (復習) 調査内容と自分の研究内容で異なる点や参考になる箇所、新たな視点を見直しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
14-15	研究を行うと同時に中間発表の準備を進める	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	研究の結果をまとめて中間発表の準備をすることが出来る。	(予習) 調査、実験方法の見直し (復習) 調査結果あるいは実験結果を見やすく整理しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
16-25	各自の研究を進め、得られた結果から考察を行う	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	研究の内容を良く理解した上で結果をまとめて考察を行い、不足分を更に追跡することができる。	(予習) 調査、実験方法の見直しを行う (復習) 調査結果あるいは実験結果を見やすく整理しておく	270	主体性 実行力 課題発見力 計画力 発信力
26-30	卒業研究発表の要旨とパワーポイント作成および論文執筆	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して論文及びプレゼンテーションの準備をする。	研究から得られた結果から発表用の要旨とパワーポイントを作成し、論文をまとめる事ができる。	(予習) 結果のまとめと整理する (復習) 得られて結果から何が言えるのか文献も使用し考察する	180	主体性 実行力 創造力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

## 2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035B	卒業研究(小野憲一)	小野憲一			4	必修	4通期
<b>科目の概要</b>							
本科目の目的は、家政学部専攻において4年間の学修を通して身に付けた学習力、知識を総合的に用いて、自分自身で意義あるテーマを探し、そのテーマを追求し、研究課題として育てていく。文献研究・調査活動など様々な研究解決法を駆使しながら、自分自身の課題について論理的に主張を組み立て、論旨が明確な論文を書き上げる。これらの研究活動全体を通して、さらに学修スキルを高め、DPの③に当たる、自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献する人材育成を目指す。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 研究課題に関する基礎的概念・内容を理解する。 ② 研究課題に沿った資料収集・読解、調査活動を行う。 ③ 研究内容の論旨が明確な論文にまとめる。 ④ 研究内容を発表し、議論を重ねる。				① 課題研究に対して先行研究等を基に、基礎的概念・内容を整理し理解することができる。 ② 研究課題に沿った研究方法を見つけ、研究課題を構築していくことができる。 ③ 研究内容に関係ある概念を的確に押さえ把握し、新しい知見を見出し、論理的にまとめ記述することができる。 ④ 研究内容を深化し、課題達成のために、他者の意見を理解し、議論する能力を醸成することができる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	自分自身の経験や体験と結びつけながら、学修活動に取り組むことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	自分自身で意義のあるテーマを探し課題設定することによって、積極的な態度でもって根気よく研究活動に取り組むことができる。					
考え抜く力	課題発見力	自分自身で設定した研究課題だけにとらわれず、新たな課題に繋がる手がかりを見出すことができる。					
	計画力						
	創造力	研究活動全般において、柔軟で多様な考えをもって取り組むことができる。					
チームで働く力	発信力	全体発表やゼミの場において、自分自身の研究進捗状況や今後の課題が何であるかを整理して表現できる。					
	傾聴力	課題達成のために、他者の意見や主張をを理解し、討論することによってより深い考えを導き出せる。					
	柔軟性						
	情況把握力						
	規律性	自分自身において、提出期限や論文作成に当たっての規定など、留意点を守って積極的に活動に参加できる。					
	ストレスコントロール力						
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：使用しない。 参考文献：それぞれの研究内容に沿った参考文献・論文関係資料等を適宜提示する。							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
家政学部ライフスタイル学科専攻において開講されている全科目。							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究は、大学4年間を通して、また最終学年の集大成としての研究活動が求められる。</li> <li>自分の研究活動と真摯に向き合い、地道な積み重ねが最大限必要となる。</li> <li>設定課題を論理的に組み立て、主張の本質を客観的にかつ柔軟的な視野をもって進められる。</li> <li>他者の意見を理解し、相互交換する探究的な心構えを醸成し培ってほしい。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>指導教員の助言を主体的に受け止め、自分自身の研究活動を計画的に進めていく。</li> <li>本学での4年間の学修の集大成として取り組む自覚を常に抱き、論文作成に臨むようにする。</li> </ul>			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	0	①			
				②			
				③			
				④			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①		✓	・ゼミの討論会、中間発表会さらに最終発表会での発表、質疑応答における表現内容・方法の明確さを評価する。 ・最終的にまとめた卒業論文内容に対して、総合的な評価を行う。 観点は以下の3点である。 観点1：学術論文の形式を有している。 観点2：論述が明瞭かつ論理的になされている。 観点3：研究活動や指導の経緯を踏まえた内容となっている。
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性) ・研究課題を自分自身の経験や関心に引きつけて真摯に取り組むことができる。 (実行力) ・明確な目標設定を行い、それに向かって根気よく取り組むことができる。 (課題発見力) ・自分自身の課題を深化し、研究活動を発展させることができる。 (発信力) ・自分の考えを整理し、相手に分かり易く伝えることができる。 (傾聴力) ・相手の考えや意見を理解し、受け入れると共に、考えを深めることができる。 (規律性) ・締切期限や留意点を厳守し、研究活動に確実に進めていくことができる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・A(優)の基準 ①ゼミ活動や発表会等を通して、自分自身の考えを積極的に発信し、さらに他者の意見を柔軟に受け入れながら、自分自身の研究活動を高めている。 ②先行研究の内容を活かしながら、文研研究湯調査活動を通して、自分自身の研究の独自性を示している。 ③論文形式と内容において、的確な展開がなされ、明確な知見が盛り込まれている。 ・S(秀)の基準 上記の①～③項目に関して、極めて高い評価を得られると判断された場合。	B(良)の基準 ①ゼミ活動や発表会等を通して、自分自身の考えを分かり易く発表し、他者の発表から少しでも学ぼうとする姿勢を示している。 ②先行研究を踏まえ、自分自身が文献読解や調査研究を通して研究活動を進めている。 ③学術論文の形式を踏まえた論文作成がなされている。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	○全体オリエンテーション (年間の研究活動の進め方と留意点の確認) ○自分自身の関心に基づく研究課題の設定 ○研究活動開始	全体指導 (個人発表の構想発表と検討) 個別指導 (研究テーマの整理) Classroomの活用法の確認 (連絡と情報共有等)	・研究活動の進め方や留意点を整理し、自分自身の課題設定を行うことができる。	(予習) 公共図書館、大学図書館・インターネットを利用使用した論文資料と先行研究文献等の収集 (復習) 論文資料と先行研究文献等の整理	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-12	○先行研究文献の読解 ○論文資料と先行研究文献等の収集と分析 ○調査活動案の作成 ○具体的な研究活動の見つけ出し	個別指導 (研究活動の方向性の決定と研究継続) 全体報告(指導) (ディスカッションによる研究活動経過の相互批評) Classroomを活用した資料と情報共有	・自分自身の研究課題を基に、研究活動を計画的に進め、ゼミ発表において進捗状況を確に発表することができる。	(予習) 公共図書館、大学図書館・インターネットを利用使用した論文資料と先行研究文献等の読解・分析・考察の継続 (復習) 指導教員に基づく研究活動の修正と追加	240	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-15	○中間発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成とゼミ内におけるリハーサル ○研究活動の進捗状況の確認	個別指導 (研究活動の方向性の決定と研究継続) 全体報告 (ディスカッションによる中間発表会に向けた相互批評) Classroomを活用した資料と情報共有	・中間発表会の諸準備を通して、自分自身の研究活動の進捗状況を確認することができきる。	(予習) 中間発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成 (予習) プレゼンの修正、発表の練習	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-27	○中間発表会を踏まえた研究活動の方向性と内容の修正・確認 ○研究活動の継続(先行研究文献の読解と調査活動の実施・分析・考察) ○計画的な卒業論文執筆	個別指導 (研究活動の継続) 全体報告 (ディスカッションによる研究活動と原稿執筆経過の相互批評) Classroomを活用した資料と情報共有 中間発表会に向けたプレゼン制作	・研究活動の方向性と内容を整理し、卒業論文執筆を計画的に進めることができる。	(予習) 新たな資料と論文等の収集・読解・分析・考察、卒業論文の作成 (復習) 指導教員に基づく研究活動と卒業論文原稿の修正・追加	240	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
28-30	○最終発表会に向けた要旨と発表原稿・プレゼンの作成、ゼミ内でのリハーサル ○卒業論文の校正と完成	個別指導 (卒業論文原稿執筆の継続) 全体報告 (ディスカッションによる研究活動と卒業論文執筆経過の相互批評) Classroomを活用した資料と情報共有 最終発表会に向けたプレゼン作成	・最終発表会の準備を行い、研究活動の成果を卒業論文として整理し完成させることができる。	(予習) 最終発表会に向けた要旨と発表原稿、プレゼンの作成と修正、発表練習・卒業論文の校正と完成 (復習) 指導教員に基づく卒業論文原稿とプレゼンの完成、卒業研究全体の総括	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035C	卒業研究 (龍田建次) Graduation Research	龍田建次			4	必修	4通期

**科目の概要**

卒業研究は、学校生活最後の1年間を1つのテーマを決めて行う授業です。ライフスタイル学科の4年間で学んだことをベースに、テーマを決めます。家政学は、生活の向上を支える実践的総合科学です。まずは、これまでに学んだ生活の向上に関わる学修を整理します。研究のテーマは、よほどのことが無い限り、変えることができません。何を学修したいのか、なぜ学修したいのか、どんな結果が得たいのかをしっかりと考え、決定します。卒業研究では、このテーマ決めが、最も大切です。そのテーマに向かい、真摯に研究を進めます。その際、科学的な根拠が必要です。調査、実験、分析、考察と、卒業研究は進んでいきますが、単なる思い込みでは研究にはなりません。この一連の学修を経験することにより、論理的に物事を思考する態度を身に付くと考えています。また、「新しいライフスタイルを提案」するために必要な、自分自身の考え方、ものの見方の軸を作っていくことにもなると考えています。Diploma Policy 1「建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」に対応します。

学修内容	到達目標
① 研究テーマを決めた経緯を整理して、その目標を明確にする。 ② 先行研究を調査し、研究の方法を考える。 ③ 情報を収集し、整理、分析、考察する。 ④ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ⑤ 自身の研究成果を、口頭で発表する。	① テーマを決めた経緯を整理しながら、卒業研究の目標を明示できる。 ② 先行研究を参考にして、自身の研究の手法を構築できる。 ③ 情報を収集、整理、分析、考察することができる。 ④ 自身の研究内容を論理的に記述することができる。 ⑤ 自身の研究成果を、口頭で発表できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的な行動事例
---------------------	----------------------------

前に踏み出す力	主体性	予習課題が行われ、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれている。
	働きかけ力	
	実行力	行われた予習課題の情報原が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれており、配布物以上の内容が書かれている。
考え抜く力	課題発見力	その週の学修項目が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれており、各項目で課題があったか否か、あるいはどんな課題があったかが、すべて書かれている。
	計画力	
	創造力	復習課題が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれており、行った際に活用した知識・技能、発揮した社会人基礎力とその効果が書かれている。
チームで働く力	発信力	授業中に示された課題の回答が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれている。
	傾聴力	授業中に示された課題が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれている。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	学修 行動特性 評価シートが、期日までに提出され、すべての内容が書かれている。ただし、期日の3週間後までに提出されなければ、そのシートの評価は0にする。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト： 特になし。  
 参考文献： 必要に応じて、提示します。自身で検索した文献も、参考文献として認めることもあります。

**他科目との関連、資格との関連**

ライフスタイル学科の全科目。

学修上の助言	受講生とのルール
卒業研究に対して努力を惜しまないこと。研究に好奇心を持って向き合うこと。資料を精査し、自分の頭でしっかり考えること。真摯に取り組むことによって、初めて「研究すること」の面白さが理解できます。中途半端な取り組みからは、何も得られません。	少しずつでも良いから、自身の卒業研究に関する作業を、毎日行います。行ったことは、学修 行動特性 評価シートに書き込みます。このシートを確認しながら、毎週、進捗状況を報告することを必須とします。シートはGoogleClassroomで発信し、GoogleDriveで教員と共有します。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤				
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>A： 次の4項目がなされている                      「毎週の授業に出席し、自身の課題を報告する」「月に一回の研究室内報告で、自身の成果を報告し、メンバーの報告にも、考えたことを話す」「先行研究を自身の力で見付け、自身の課題解決に活用する」「研究の成果を、文章化やグラフ、写真などで、出力する。研究の成果を、他の人が理解できるように伝える」</p> <p>S： Aの4項目が、極めて高い評価が与えられると判断された場合、Sと評価する。</p>	<p>B： 次の3項目がなされている。                      「毎週の授業に出席し、自身の課題を報告する」「先行研究を指導教授の力も借りて見つけ出し、自身の課題解決に活用する」「研究の成果を、文章化やグラウ化などで、出力する」</p>



週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	卒業研究のテーマを確認・決定する。 テーマとした理由と、どんな結果を考えているかを文書で示します。	報告 発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 月一回の研究室内発表会で発表している。 テーマを考えた理由を提示した。	(予習) これまでの授業などで、学んだ事を振り返ります。 (復習) 考えたこと、話し合ったことを文書で表現します。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-5	研究の方法を考えます。 研究の目標を確認します。 検索した先行事例を報告し、自身の研究との比較、活用できることを整理します。 大まかな研究計画を立てて、その妥当性を検討します。	報告 発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 月一回の研究室内発表会で発表している。 先行事例を提示し、自身と比較し、参考にしてしていることを示した。	(予習) 先行事例を検索します。卒業研究として成立するかを、改めて自身で考えます。 (復習) 調べたこと、考えたこと、話し合ったことを文書で表現します。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-12	研究の方法を決めて、研究計画を立てます。 先行事例を読み込み、さらに検索します。 フィールドワークやインタビュー、アンケート調査、実験など、より具体的な研究方法を考え、実施します。	報告 発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 月一回の研究室内発表会で発表している。 自身で調べたこと、考えたこと、行ったことをスライドにまとめて発表している。	(予習) 先行事例を読み込み、さらに検索します。フィールドワークやアンケート調査など、具体的な研究方法を考えます。 (復習) 調べた、考えた、話し合った、行ったことを文書で表現します。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-14	中間報告の準備をします。 ここまでの進捗状況を、スライドにまとめます。 発表原稿を作成し、研究室内で練習します。 要旨を作成します。 指導教授のチェックを受けます。	発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 中間報告のスライド、オーラル原稿、要旨を指導教授に提出している。 研究室内で練習した。	(予習) スライドと発表原稿、要旨の案を作成します。 (復習) スライドと発表原稿、要旨を修正します。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	中間報告を行います。 ここまでの研究の進捗状況を報告します。 要旨を提出します。	発表 提出	中間報告した。 要旨を提出した。	(予習) 十分練習します。 (復習) いただいた質問や意見を整理します。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-21	研究を進めます。 研究の目標、計画、中間報告での意見などを整理して、卒業研究を進める。	報告 レクチャー	毎週の授業に参加している。 毎回、それまでに行ったこと(情報収集、分析、考察など)を、報告している。	(予習) 中間報告での意見を整理して、研究計画を整理・改善します。 (復習) 情報収集、分析、考察などを文書で表現します。	900	
22	卒業論文の目次を書き出します。 指導教授と話し合いながら、それまでに行ったことを並べます。	報告 レクチャー	毎週の授業に参加している。 目次のチェックを指導教授から受けた。	(予習) 行ったことを、整理する。 (復習) 話し合っただけで考えた目次を書き出す。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
23-26	卒業論文を執筆します。 指導教授と話し合いながら、研究の背景、行ったこと、行った結果、考えたことを、人が読んで理解してもらえるようにまとめます。	報告 レクチャー	毎週の授業に参加している。 指導教授のチェック、レクチャーを受け、執筆を進めた。	(予習) 目次に従い、それまでに書いた文書や写真、図、表を並べます。 (復習) 話し合ったことを反映させます。	720	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
27	卒業論文を提出します。 提出には、指導教授の許可が必須です。	提出	卒業論文を提出した。	(予習) 何度も読み返し、推敲する。 (復習) 指導教授に従い、それまでに書いた文書や写真、図、表を並べます。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
28-29	研究発表の準備をします。 指導教授と話し合いながら、論文を整理して、スライド、発表原稿、要旨を作成します。	発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 スライド、発表原稿、要旨を教員に提出した。 研究室内で練習した。	(予習) スライドと発表原稿、要旨の案を作成します。 (復習) スライドと発表原稿、要旨を修正します。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
30	要旨を提出し、研究発表を行います。	提出 発表	要旨を提出した。 研究発表を行った。	(予習) 十分練習します。 (復習) 1年間のリフレクションをする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035D	卒業研究(山口佐和子)	山口佐和子			4	必修	4通期

**科目の概要**

DP1に記載しているように、建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して職場と地域の人々と共同して解決していくことができ、またDP2に記載しているように、ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付け、地域再生に貢献することができ、さらにDP3に記載しているように、自立した社会人として自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献できる人材育成を目指す。そのために、この研究室では、社会学/家族論/ジェンダー論の視点から、人びとの生活・文化に関わる研究を行う。そのなかに隠れている社会規範や価値観に注目し、社会における問題をどのように解決していったらよいかという意欲をもち、ライフスタイル学科で学んだことを活かし研究をする。

学修内容	到達目標
① 文献調査、社会調査などの調査方法を学修する。 ② 卒業論文のフォーマットを学修する。 ③ ライフスタイル学科で学修した知識を活かし、研究テーマを見つける。 ④ 選択した研究テーマについて口頭で発表する。 ⑤ 選択した研究テーマについて論文を執筆する。	① 文献調査、社会調査などの調査方法を適用することができる。 ② 学修した卒業論文のフォーマットを適用することができる。 ③ ライフスタイル学科で学修した知識を活かし、研究テーマを示すことができる。 ④ 選択した研究テーマについて口頭で発表することができる。 ⑤ 選択した研究テーマについて論文執筆を行うことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自発的・積極的に学修および調査研究を進めることができる。
	働きかけ力	
	実行力	困難があっても、工夫しながら目標に到達できる。
考え抜く力	課題発見力	思い込みや憶測でなく、事実に基づいて情報を客観的に整理することができる。
	計画力	計画通り進まない時、計画内容を修正し、期限内に完成できるように進めることができる。
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われることなく、いろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	聞き手にわかりやすく工夫のある発信をすることができる。
	傾聴力	人の意見を確認し、それをもととして自分の意見を述べるすることができる。
	柔軟性	自分と異なる意見や価値観を尊重し、柔軟に受け入れることができる。
	状況把握力	自分に割り当てられたことだけでなく、集団の中で自分ができていることを考え、目標に向かって協力できる。
	規律性	遅刻、居眠り、私語などの授業に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するために協力することができる。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト：特に指定しない。  
 参考文献：『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！ レポート・論文のまとめ方』すばる舎、1,400円＋税、その他、適宜授業内で提示する。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目は、ライフスタイル学科での学びの集大成となる科目であり、ライフスタイル学科で開講されてきたすべての授業と関連する。他科目「リサーチリテラシー」との関連が深い。

学修上の助言	受講生とのルール
--------	----------

授業時間は集中し、板書以外に口頭で説明する内容もノートにとること。 プレゼンテーションや卒業論文はファイル形式で作成し、デジタル化する。	学則で定められたように、遅刻2回で欠席1回とみなす。 授業中の私語、居眠り、勝手な途中退出、授業に関係ない電子機器の使用を禁ずる。 授業の課題、予習、復習に取り組むこと。 授業で配布する資料の予備は保管しないので、他の受講者からコピーさせてもらうこと。
---	---

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	小テスト	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	レポート	60	①	✓		最終的にまとめられた卒業論文で評価する。 知識の獲得（自分の調べた事柄を示す）：30%、知識の活用（調べた事柄を正しい論文の形式で表す）：20%、知識による解決（説得力のある結論・提案を導いている）：10%
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
平常評価 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓	卒論の報告会におけるパフォーマンスで評価する。 知識の獲得（発表の内容）：10%、知識の活用（発表資料、プレゼンテーション方法）：10%、知識による解決（発表の結論、質疑応答）：10%		
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
学修行動 社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性) 積極的に学修し文献や情報を探することができる。 (実行力) 工夫しながら目標に到達できる。 (課題発見力) 自ら課題を発見する。 (計画力) 計画し期限内に完成できる。 (創造力) いろいろな方向から考える。 (発信力) 聞き手や読み手に対しわかりやすく表現できる。 (傾聴力) 複数の意見を聞くことができる。 (柔軟性) 異なる意見を受け入れることができる。 (状況把握力) 集団の中で自分ができることを考えることができる。 (規律性) 授業のルールを守ることができる		
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S (秀) の目安：通常から授業内の課題に非常に積極的に取り組んでいる。卒論に関わる報告会において、発表の内容および論理性において大変優れ、発表資料が的確にわかりやすく作成されており、プレゼンテーションの方法が非常に優れ、発表の結論および質疑応答に関しじゅうぶんに説得力を持つ。卒業論文において、先行研究および調査がじゅうぶんなされ、それらを正しい論文の形式で表し、非常に説得力のある結論・提案を導き出している。</p> <p>A (優) の目安：通常から授業内の課題に積極的に取り組んでいる。卒論に関わる報告会において、発表の内容および論理性において優れ、発表資料が的確にわかりやすく作成されており、プレゼンテーションの方法が優れ、発表の結論および質疑応答に関し説得力を持つ。卒業論文において、先行研究および調査がじゅうぶんなされ、それらを正しい論文の形式で表し、説得力のある結論・提案を導き出している。</p>	<p>B (良) の目安：通常から授業内の課題にまじめに取り組んでいる。卒論に関わる報告会において、発表の内容および論理性において一定のレベルを保ち、発表資料がわかりやすく作成されており、プレゼンテーションの方法が適切で、発表の結論および質疑応答に関し一定のレベルに達している。卒業論文において、先行研究および調査がなされ、それらを正しい論文の形式で表し、適切な結論・提案を導き出している。</p> <p>C (可) の目安：通常から授業内の課題に取り組んでいる。卒論に関わる報告会において、発表の内容が一定のレベルを保ち、発表資料が適切に作成されており、プレゼンテーション方法、発表の結論、質疑応答に関し一定のレベルを保っている。卒業論文において、先行研究および調査がなされ、それらを論文の形式で表し、テーマに合った結論・提案を導き出している。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	イントロダクション 卒業論文のテーマの見つけ方、および卒業論文を執筆する方法(形式や調査も含む実践)について学修する。	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加する。研究テーマを見つけ、関係資料の収集を開始する。	予習: 適切な研究テーマを見つけ、インターネットや図書館で関係する文献を検索する。 復習: 収集した資料や文献を構造化して整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
6-10	研究テーマ・方法論の決定 ゼミにおいて研究の進捗状況の報告をする。学生同士も意見を交換する。	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加する。計画に沿って作業を進め、進捗状況を明らかにする。	予習: 文献調査を継続し、テーマの背景や先行研究の知見を調べる。 復習: 整理された資料や文献をもとに、自分の研究テーマを確立し、効果的な方法を探る。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
11-14	研究方法に沿った調査展開 計画に沿って調査を遂行する。卒業研究中間発表の準備をする。	演習 ディスカッション google meetの活用も含む。	毎週のゼミに参加する。たえず進捗状況を明らかにし、卒業研究中間発表ができるようにする。	予習: 調査を遂行する。 復習: 授業内での教員や他学生からのアドバイスを活かし、自分の研究がより良いものとなるように見直しを続ける。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
15	卒業研究中間発表の準備 卒業中間発表ができるように原稿やスライドの準備を行う。卒業論文の執筆に関する教材動画を視聴する。授業の感想をgoogle formで提出する。	オンデマンド配信	毎週のゼミに参加する。授業の感想をgoogle formで送る。中間発表の準備を行う。	予習: 中間発表の準備をする。 復習: 中間発表時に出された意見をまとめて、研究の方向性を確認する。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
16-20	研究調査結果の分析と考察 得られた結果を分析・考察し、執筆につなげる。	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加する。得られた結果から執筆につながる糸口を見つける。	予習: 研究を進め、執筆の準備を開始する。 復習: 研究を進め、執筆の準備を開始する。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
21-29	卒業論文の執筆と卒業研究発表の準備 卒業研究発表ができるように要旨、原稿やスライドの準備を行う。	演習 ディスカッション google meetの活用も含む。	毎週のゼミに参加する。卒業論文を書く。卒業研究発表の準備をする。	予習: 研究を進め、執筆する。 復習: 研究を進め、執筆する。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
30	卒業論文の執筆と授業全体の振り返り 卒業論文をさらに良いものに高める。卒業論文に関する教材動画を視聴する。授業の感想をgoogle formで提出する。	オンデマンド配信	毎週のゼミに参加する。卒業論文を期限内に提出する。授業の感想をgoogle formで送る。	予習: 研究を進め、執筆する。 復習: 研究を進め、執筆する。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035E	卒業研究(丹羽誠次郎) Graduation Research	丹羽誠次郎			4	必修	4通年

**科目の概要**

本科目は、ライフスタイル学科での4年間の学修の集大成に当たる。これまでの学修により積み上げてきた知見をベースとして、自身が設定した研究対象、テーマについて科学的な方法により調査、分析を行い、新たな見解を示していく。この一連の手続きを経験することによって、論理的に物事を思考する態度を身につけるばかりでなく、DP1「建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力」を総合的に修得し、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献する」ために必要な、自分自身の考え、ものの見方の軸を作っていくことにもなる。さらに1年間に亘り一つのテーマに取り組み続けることで、DP3「自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高める」態度も培っていく。

学修内容	到達目標
① ライフスタイル学科での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出す。 ② 自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査・分析を行う。 ③ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ④ 自身の研究の概要を口頭で発表する。	① ライフスタイル学科での学修をベースに生活に関係した研究テーマを設定することができる。 ② 自身の研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって分析することができる。 ③ 自身の研究内容を論理的に記述することができる。 ④ 自身の研究の概要を口頭で発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	自身の選んだテーマへの好奇心を常に持続しつつ、研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	ゼミの仲間の研究についても進んで協力することができる。
	実行力	研究に関することは、たとえ時間や根気が必要とされることでも面倒と思わず、常に積極的な態度で臨むことができる。
考え抜く力	課題発見力	日常生活の場面から、魅力的な研究テーマを見つけ出すことができる。普段から、自身の研究テーマに対する情報やヒントを探る態度を継続できる。
	計画力	設定したスケジュール通りに作業が進められる。
	創造力	自身の研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって新しい見解を示すことができる。
チームで働く力	発信力	研究に関する自身の見解を論文、口頭発表、スライドにまとめることができる。ゼミの仲間の研究に対して疑問や意見を提出することができる。
	傾聴力	多くの先行研究にあたることできる。教員やゼミの仲間からの意見を建設的に受け取ることができる。
	柔軟性	教員やゼミの仲間からの意見をもとに自身の研究方法を検討し直すことができる。
	状況把握力	自分だけでなく、ゼミの仲間にとっても有意義な場になるように心がけ、ゼミに参加することができる。
	規律性	必要な作業を行ってからその報告を携えて毎回のゼミに出席できる。発表要旨、論文などの提出期限を守ることができる。
	ストレスコントロール力	卒業研究が自己の成長につながることを理解し、前向きに取り組むことができる。

**テキスト及び参考文献**

テキスト：  
特に用いない。必要な資料はgoogle classroomにて提示する。  
参考文献：  
論文のまとめ方については以下を参照すること  
『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/71454/>  
戸田山和久、『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』、NHK出版、2012。  
それぞれの研究資料については随時指示する。

**他科目との関連、資格との関連**

ライフスタイル学科で開講される全ての科目、特にライフスタイル学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びスタジオ入門、スタジオA、B、C。

学修上の助言	受講生とのルール
卒業研究に対して努力を惜しまないこと、研究対象への好奇心を継続させること。資料を精査し、自分の頭で精一杯考えることが全員に求められる。一生懸命取り組むことによって初めて「研究すること」の面白さも理解できる。中途半端な取り組みからは、何も得ることができないと心得て欲しい。	4年次の1年間、少しずつで良いので自身の卒業研究に係る作業を毎日必ず継続してほしい。また、ゼミへの毎週の出席と進捗状況の報告も必須とする。また時間に限度は設けず、学修(研究)に臨んでほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
		レポート		70	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		20	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>① 質問や意見を積極的に述べるができる。</p> <p>② 先行研究を示しつつ、自身の研究テーマの独自性が説明できる。</p> <p>③ 研究の論旨が明快で結論にも明快な主張がある。</p> <p>※上記3項目の基準をに対して極めて高い評価が与えられると判断された場合、S（秀）評価をする。</p>	<p>① 毎週行われるゼミに参加し、自身の研究の進捗状況について報告ができる。</p> <p>② 発表会で研究内容がより分かりやすく理解してもらえるような工夫をしている。</p> <p>③ 先行研究を示しつつ、研究が進められている</p> <p>④ 客観的なデータに基づいて論が展開されている。</p> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。</p> <p>C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。</p> <p>⑤ 学術論文の形式に則った論文作成がなされている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。自身の興味の周辺にある先行研究や文献にあたり、研究テーマを設定する。 ※研究テーマの決定	演習／ディスカッション ゼミは対面のほか、google meetでも行う。 資料はgoogle classroomで提示する。	毎週のゼミ参加している。 研究テーマ案を提示できる。	(予習) 自身の興味の周辺にある先行研究や文献にあたる。 毎週のゼミに参加するにあたって、1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
5-9	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。設定した研究テーマが卒業研究として成立するか判断するために、さらに先行研究にあたり、その妥当性を確認する。同時に研究方法、研究計画についても妥当かつ可能であることを確認する。	演習／ディスカッション ゼミは対面のほか、google meetでも行う。 レジюмеの提出、資料の提示はgoogle classroomをつかう。	毎週のゼミ参加している。 研究テーマの妥当性を提示できる。	(予習) さらに先行研究にあたる。 毎週のゼミに参加するにあたって、1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
10-14	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。各自の研究方法に従って調査(文献調査、フィールド・ワーク、インタビュー、アンケート調査等)を進める。	演習／ディスカッション ゼミは対面のほか、google meetでも行う。 レジюмеの提出、資料の提示はgoogle classroomをつかう。	毎週のゼミ参加している。 調査の進捗状況を報告できる。	(予習) 各自の研究方法に従って調査を進める。 毎週のゼミに参加するにあたって1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	卒業研究中間報告の準備 ここまでの研究の進捗状況をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行い、教員のチェックを受ける。 ※卒業研究中間報告 ここまでの研究の進捗状況を発表する。	※中間報告作成条件の提示はオンデマンド配信でおこなう。 その後の指導は対面のほか、google meetも併用して進める。	発表原稿とスライド、要旨が作成できる。 卒業研究中間報告ができる。	(予習) ここまでの研究の進捗状況をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行う。 (復習) 発表に対して出された質問や意見をまとめる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
16-21	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。 調査結果をまとめ、分析、考察をおこなう。	演習／ディスカッション ゼミは対面のほか、google meetでも行う。 レジюмеの提出、資料の提示はgoogle classroomをつかう。	毎週のゼミ参加している。 分析の進捗状況を報告できる。	(予習) 各自の研究方法に従って調査結果の分析を進める。 毎週のゼミに参加するにあたって1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
22-29	卒業論文の執筆 論文の構成を考え、目次を作る。 毎週のゼミに参加して、論文の完成した部分から教員のチェックを受ける。	演習 ゼミは対面のほか、google meetでも行う。 レジюмеの提出、資料の提示はgoogle classroomをつかう。	毎週のゼミ参加している。 期日までに論文を作成し、教員の確認を経た上で提出できる。	(予習) 各自の組み立てた構成に従って論文の執筆を進める。 (復習) 教員から指摘を受けた部分を修正する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
30	卒業研究発表の準備 研究の内容を発表原稿とスライド、要旨の作成を行い、教員のチェックを受ける。 ※卒業研究発表	※発表資料作成条件の提示はオンデマンド配信でおこなう。 その後の指導は対面のほか、google meetも併用して進める。	発表原稿とスライド、要旨が作成できる。 卒業研究発表ができる。	(予習) 研究内容をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行う。 (復習) 発表に対して出された質問や意見から自身の卒業研究を振り返る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力



## 2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035F	卒業研究(平岩暁子) Graduation Research	平岩暁子			4	必修	4通期
<b>科目の概要</b>							
ディプロマポリシーDP①②③ の、建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を発揮し、ライフスタイル学科で学んだ知識を最大限に生かし、4年間の学修の集大成として研究を行う。衣生活やファッションの視点から生活の中での課題や問題点を見つけ、調査・分析、制作などの手法をとりながら新たな見解を示していく。論理的な文章で研究論文をまとめ、得られた事実を分かりやすく伝えられるように発表を行い、質疑やコメントに対しても的確に対応する力を身につけていく。得た専門的知識や技能を社会に発信し、新しく豊かなライフスタイルの提案ができる人材となるため役立つ。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① ライフスタイル学科での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出す。 ② 自身の研究テーマに従い、資料の収集、調査、分析方法を知る。 ③ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ④ 自身の研究を口頭で発表し質疑に応答する。				① ライフスタイル学科での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出し説明することができる。 ② 自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査、分析を行うことができる。 ③ 自身の研究内容をまとめ、論理的に説明することができる。 ④ 自身の研究を口頭で発表し質疑に適切に対応することができる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	設定したテーマについて常に好奇心と探求心を持って取り組むことができる。					
	働きかけ力	ゼミの仲間の研究についても互いに興味を持ち進んで協力することができる。					
	実行力	研究の進捗を確認しながら、常に積極的に行動することができる					
考え抜く力	課題発見力	日常生活の中からさまざまな視点で関心や疑問を持ち、研究テーマを見つけ出すことができる。					
	計画力	設定したスケジュール通りに作業を進めることができる					
	創造力	設定した研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって新しい見解を示すことができる。					
チームで働く力	発信力	研究に関する自身の見解を論文、口頭発表、パワーポイントにまとめることができる。					
	傾聴力	教員や他者からの意見を理解し、自分の考えもまとめることができる。					
	柔軟性	教員やゼミの仲間からの意見をもとに自身の研究方法を検討し直すことができる。					
	状況把握力	自分だけでなく、ゼミの仲間にとっても有意義な場になるように心がけ、ゼミに参加することができる。					
	規律性	無断欠席、遅刻をしない。ルールを守った行動ができる。					
	ストレスコントロール力	卒業研究が自己の成長につながることを理解し、前向きに取り組むことができる。					
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：使用しない 参考文献：各自の研究内容に応じて参考・引用文献を紹介する							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
ライフスタイル学科において開講される全ての授業科目と関連させる							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
研究に対し謙虚に向き合う姿勢を持つこと。好奇心と探求心を持続させ努力を惜しまないこと。				ゼミへの毎週の出席と進捗状況の報告を必須とする。期日があるものは計画立て確実に実行すること。 ゼミノートを作り、記録しながら進める。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
		レポート		50	①	✓	
					②	✓	
③					✓		
④					✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			40	①	✓		
				②	✓		
	③			✓			
	④			✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>研究を自ら積極的に行えていることに加え、問題が生じた場合でも的確に判断し対応できること。しっかりと調査分析が行え、自らの問いに対する結果が導き出せている。論理的な主張がされ研究論文がまとめられている。論文発表会では分かりやすくまとめ報告ができる。質疑やコメントに対しても的確に対応できている。これらに対し高い評価を与えられると判断した場合Sとする。</p>	<p>毎週のゼミに必ず出席し、研究結果をまとめた報告書、要旨、論文を決められた期日までに提出できる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	オリエンテーション 研究テーマを確立するための先行研究の調査	演習 グループワーク	毎週のゼミに参加している研究テーマに関する資料を収集することができる	(予習) 図書館あるいはインターネットなどで資料や文献等の検索をする (復習) 収集した資料や文献等を整理する	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	教員やゼミの他学生と意見交換しながら、自身の研究テーマ、方法を確立する。	演習 グループワーク ディスカッション (google meetの使用も含める)	文献調査を計画的に進め、ゼミでの報告において進捗状況を的確に発表することができる。	(予習) 文献調査を継続し研究背景をまとめる (復習) さまざまな意見を整理し、自身の研究テーマ、方法を確立する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-13	各自の研究方法に従って調査・製作を進める。	演習 ディスカッション (google meetの使用も含める)	調査を計画的に進め、ゼミでの報告において進捗状況を的確に発表することができる。	(予習) 調査・製作を進める (復習) 出された質問や意見から、調査内容と自分の研究内容で異なる点や参考になる箇所、新たな視点を見直しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14-15	研究を進めると同時に中間発表の準備を行う。	演習 ディスカッション	ここまでの研究結果をまとめて中間発表の準備・発表をすることができる。	(予習) ここまでの調査内容を整理しパワーポイントにまとめる (復習) 発表に対して出された質問や意見から、研究の方向性、方法の修正の必要性を考える	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-25	各自の研究をさらに進め、得られた結果の分析・考察を行う	課題の解説 演習 ディスカッション (google meetの使用も含める)	研究が進められ、何らかの結果が得られている。	(予習) 研究を進め、結果の整理を行う。 (復習) 分析法などを再考し、得られた結果を考察する	270	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
26-30	卒業論文の執筆 卒業研究発表の準備。 要旨とパワーポイント作成	課題の解説 演習 ディスカッション	各自の組み立てた構成に従って論文執筆し期限内に提出できる。 卒業研究発表・質疑応答ができる	(予習) 論文執筆のために結果をまとめる。発表のパワーポイントを作製する (復習) 発表に対して出された質問や意見から、必要があれば加筆修正する	270	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035H	卒業研究(山田陽平)	山田陽平			4	必修	4通期

**科目の概要**

本研究室は認知心理学や認知科学のテーマや研究方法を用いて生活に関わる事象の解明を目指す。  
 「認知」とは思考や推論、記憶などの知的活動の総称であり、一般的には頭の中（脳）の働きによるものと考えられている（たゞの認知論）。状況的認知論とは、人の知的な活動は頭の中だけで成立するのではなく、頭の外にある身体や物理的な環境、その場の状況が複雑に相互作用したものとする立場である。本研究室では、この状況的認知論の立場に基づき、人の認知がいかに発達するのかを明らかにしていくことが大きな目的である。具体的に挙げるなら、「できない」から「できる」ようになっていく学習過程を明らかにすることに關心がある。このときの学習は、お勉強的な学習でもよいし、運動技能の学習、賢く買い物ができるようになるといった日常生活で賢く生きていくような学習でも何でもよく、人間の知性に関するものであれば全て研究のターゲットである。研究の方法は一人称研究を軸にしており、研究者自身が被験者となり、長期間にわたって自分自身の変化を記録・分析する。そのためにデータの収集を多面的に行う。認知のような内部で行われている目に見えない現象を言語化することで外化する。そのために、今の思考を話しして収集・分析するプロトコル分析などを使う。加えて、身体動作の映像記録、視線計測装置を活用し、客観的なパフォーマンスの測定も行う。  
 以上の内容で行う卒業研究の活動はライフスタイル学科の三つのディプロマシー・ポリシーを達成することに關連する。  
 DP1「建学の精神、社会人基礎力、自己学習力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる。」  
 DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な力・資・住および地域活性化に關連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる。」  
 DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。」

学修内容	到達目標
① 学術文献を読みあさり、自分の研究の位置付けおよび意義を見つける。 ② 方法の記録のしかたを学ぶ。 ③ データを量的・質的に分析する方法を学ぶ。 ④ データおよび理論の総合のしかたを学ぶ。	① 先行研究を正しく引用し、研究目的に意義を持たせることができる。 ② 研究方法は再現できるように正確かつ丁寧に書くことができる。 ③ データは事前に計画した通りに分析することに加えて、多面的に見ようとし続けることができる。 ④ データおよび理論を総合して、論理性をもった自分なりの考察をすることができる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組んでいる。
	働きかけ力	他人に働きかけ、巻き込んでいる。
	実行力	目的を設定し、確実に行動している。
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにしている。
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備している。
	創造力	新しい価値を生み出している。
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝えている。
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴いている。
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解している。
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解している。
	規律性	社会のルールや人との約束を守っている。
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応している。

**テキスト及び参考文献**

研究をはじめるときに当たって参照する学術論文：認知科学、質的心理学研究、心理学研究、認知心理学研究、人工知能学会誌、家政学会誌、教育心理学研究

**他科目との関連、資格との関連**

ライフスタイル学科で開講される全ての科目、特にライフスタイル学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びスタジオ入門、スタジオA、B、C

学修上の助言	受講生とのルール
研究とは、問いを立てて、関連する先行研究を読んでどこまで明らかにされているかを把握した上で、独自の問いを立て直し、それを検証するためのデータを収集して、問いに対する回答を導くものである。	目標を定めて必ず実行する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		
				②		
				③		
				④		
	平常評価	小テスト	0	①		
				②		
				③		
				④		
平常評価	レポート	0	①			
			②			
			③			
			④			
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓	自分で問いを立ててデータを収集し問いに対する解を作る課題の解決：90% 1) 卒業論文の内容を評価する。評価の観点は、到達目標に挙げたとおりで、序論、方法、結果、考察について学術論文を基準に評価する。加えて、引用文献が正しく書けているかを評価する。70% 2) 中間報告会及び最終発表会で研究内容を省略することなく、かつ下級生にもわかるように表現しようとしているかを評価する。20%	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	以下の観点それぞれに対して評価する。 主体性 物事に進んで取り組んでいる。 働きかけ力 他人に働きかけ、巻き込んでいる。 実行力 目的を設定し、確実に行動している。 課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにしている。 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備している。 創造力 新しい価値を生み出している。 発信力 自分の意見をわかりやすく伝えている。 傾聴力 相手の意見を丁寧に聴いている。 柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解している。 状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解している。 規律性 社会のルールや人との約束を守っている。 ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応している。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
総合評価割合			100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S評価は次の3点が含まれているものに与える。 ・学問分野における当該卒業研究の位置付けが示されている。 ・他者が再現できる方法でデータを収集して、分析を行っている。 ・序論、方法、結果、考察、引用文献を学問分野のルールにしたがって正しく書くことができている。  A評価は次の2点が含まれているものに与える。 ・他者が再現できる方法でデータを収集して、分析を行っている。 ・序論、方法、結果、考察、引用文献を学問分野のルールにしたがって正しく書くことができている。	B評価：序論、方法、結果、考察、引用文献を学問分野のルールにしたがって正しく書くことができている。 C評価：卒業論文を提出することができたが、Bの内容の記述に誤りがある。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	問題を発見するために、学術論文を読みあさる。問題を解決するための方法および分析方法を計画する。	演習	学術文献を読みあさり、自分の研究の位置付けおよび意義を見つけた。先行研究を正しく引用し、研究目的に意義を持たせることができた。	(予習) 参考文献に挙げた学術論文から興味のある論文をピックアップして読む。 (復習) セミ発表時の議論をふまえて、文献を読み直す。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
6-20	データを収集する。	演習	データの収集方法を記録した。	(予習) データを収集する。収集方法を記録する。 (復習) データの収集方法を見直す。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
21-25	データを分析する。	演習	データを分析することができた。データは事前に計画した通りに分析することに加えて、多面的に見ようとした。	(予習) データを分析してくる。 (復習) データを分析し直した。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
26-30	論文を執筆する。	演習	論文を書き上げることができた。研究方法は再現できるように正確かつ丁寧に書くことができた。データおよび理論を総合して、論理性をもった考察をした。	(予習) 論文を書く。 (復習) 論文を書き直す。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

## 2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035I	卒業研究(今泉充啓)	今泉充啓			4	必修	4通年
<b>科目の概要</b>							
3年次までに受講した講義を通じて修得した学修成果の総決算として、卒業研究に取り組みます。卒業論文作成にあたっては、各自の問題意識に基づき研究テーマを決め、綿密なスケジュールを立て、進行状況を把握しながら進めていきます。この過程の中で、情報の収集、分析の方法、文章のまとめ方、論文の書き方などのスキルを身に付けます。卒業研究では、「建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」の3つのDiploma Policyの実現を目指します。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 新しいライフスタイルに関連した研究テーマを見つけ出す。 ② 情報の整理の仕方について理解する。 ③ 論文の書き方について理解する。 ④ 発表の仕方について理解する。				① ライフスタイルに関連した問題意識に基づき研究テーマを選定することができる。 ② 情報技術を活用することができる。 ③ 自分の考えをまとめた確かな文章で表現できる。 ④ 発表の構成を考え、論文をスライドにまとめ発表することができる。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	研究テーマに関して興味を持って積極的に取り組み進めることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					
考え抜く力	課題発見力	問題意識を持つことにより問題に対する課題を明確にすることができる。					
	計画力						
	創造力	身に付けた基礎知識を工夫して活用することができる。					
チームで働く力	発信力	自分の意見を整理し、適切な方法、手段で伝えることができる。					
	傾聴力	ゼミ仲間に質問をして、意見を引き出すことができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：使用しない。プリントを適宜配布する。							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
ライフスタイル学科で開講されているすべての科目							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
配布する資料をもとに、予習復習をして授業に備えてください。				研究の進捗状況や課題について定期的に報告を求めます。止むを得ず欠席または遅刻となる場合は事前に連絡してください。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①						
				②						
				③						
				④						
	平常評価	小テスト		0	①					
					②					
					③					
					④					
		レポート		60	①	✓				卒業論文として研究の意義や必要性が的確に述べられ、適切な表現によって論理的に記述されているかどうか、また新規性、独自性の観点から評価します。
					②	✓				
					③	✓				
					④	✓				
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①	✓			卒業研究中間報告と卒業研究発表会において、プレゼン資料の論理的な展開があるか、わかり易さのための工夫がされているか、発表態度が適切であるか、質問に対して適切に回答できているかの評価基準に基づいて総合的に評価します。			
			②	✓						
			③	✓						
			④	✓						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①	✓			（主体性）研究テーマに関して興味を持って積極的に取り組み進めることができる。 （実行力）目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。 （課題発見力）問題意識を持つことにより問題に対する課題を明確にすることができる。 （創造力）身に付けた基礎知識を工夫して活用することができる。 （発信力）自分の意見を整理し、適切な方法、手段で伝えることができる。 （傾聴力）ゼミ仲間に質問をして、意見を引き出すことができる。 （規律性）授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。		
				②	✓					
				③	✓					
				④	✓					
総合評価割合			100							

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準



週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	研究テーマを決定する 先行研究を調査する	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加している 進捗状況を報告できる	(予習) 進捗報告のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を見直す	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	情報の収集方法・分析方法について学ぶ 先行研究を調査する	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加している 進捗状況を報告できる	(予習) 進捗報告のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を見直す	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-14	中間報告に向けてレジュメ、およびパワーポイントのスライドを作成する 先行研究を調査する	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加している 進捗状況を報告できる	(予習) 進捗報告のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を見直す	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	卒業研究の中間報告を行う	演習 発表	卒業研究の中間報告ができる	(予習) 中間報告のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を見直す	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	卒業論文の書き方について学ぶ 先行研究を調査する	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加している 進捗状況を報告できる	(予習) 進捗報告のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を見直す	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-29	卒業論文を執筆する 卒業研究発表に向けてレジュメ、およびパワーポイントのスライドを作成する	演習 ディスカッション	毎週のゼミに参加している 進捗状況を報告できる	(予習) 進捗報告のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を見直す	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力
30	卒業研究の発表を行う	演習 発表	卒業研究発表ができる	(予習) 卒業研究発表のための準備をする (復習) ゼミ仲間の意見をもとに研究内容を振り返る	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力